

子育ての村が できた！

発達支援、家族支援、共に生きるために

北川聡子・小野善郎

[共編]

向き合って、
寄り添って、
むぎのこ37年
の軌跡



福村出版

はじめに

ある研修会でお母さんが娘さんから教えられたことを話してくれました。

「お母さん、平等ってわかる？」

「それはみんなお母さんのお腹から生まれてきた子どもということなんだよ」

私はこのことを聞いて、長年求めてきた平等の意味がこの娘さんの言葉を通して、すーっと腑に落ちたように思いました。娘さんの言葉にあるように、みんな平等の命のはずなのに、障害があつたり、困り感を抱えていたり、病気だつたりすると、その分、生きるときに苦勞を背負うことがどうしても多くなります。

若い日に初めて会った自閉症の少年は、他害や自傷が激しく、とても驚いたのを今でも覚えています。その行動に反して、彼の目の純粹さ、賢さ、そして「お前はどうかなんだ。信頼できる人なのか」と、挑戦的な眼差^{まなざ}しで私を見つめていたのです。

彼の本当の気持ちはわかりません。私がそう感じ取っただけです。でもそのとき、重い障害

があつて言葉のない人たちの内面の意思や意欲、感情などがはつきりとあり、そのことを感じ取れないのは私たちの方であることを感じたのです。

彼の目は、希望のある未来をつくることへの挑戦状だったのかもしれない。希望のある未来のためには紆余曲折がありました。それでも、いつも障害のある子どもたちのぶつかる壁に對して、問題を問題とせず、困り感をそのままにせず、不可能を可能にするために、みんなで取り組んできたのが「むぎのこ」の歴史ともいえます。

それは障害があつたり、困り感がある子どもが「自分つてすばらしい」と思えるようになり、まわりの人たちも同じように感じていくための営みです。この「むぎのこ」の営みは、子育てが大変になった今、すべての子どもに通じることだと思えます。

もう三十年くらい前のことです。そのころは、「保育園に入れるのはかわいそうだ」、「子育ては母親の責任」という風潮がまだ強かつた時代でした。そんな時代なのに、お互いの子どもが同じ保育園に通園していた古家先生（現むぎのこ統括部長）によると、私が保護者懇談会で「子どもは保育園で育ててほしい」と言つたそうです。そしてそれを聞いた保育士さんたちがとても驚いて「新人類のお母さん」と言つていたそうです。今では、「むぎのこ」のミッシヨンにもあるように「一人の子どもを育てるには、村中の大人の知恵と力と愛と笑顔が必要」、「社会全体で子育てを応援する」という価値観に少しずつ変わってきましたが、その時代に変

わったことを言う私は不思議な存在（新人類）として見られていたようです。

そんな変わった存在だったから、未来の保障がないまま「むぎのこ」をつくったときも、まわりからそのような目で見られていたのかもしれない。当時の多くの人たちは、今日まで「むぎのこ」が存在するとは思ってもみなかっただろうと思います。「むぎのこ」が今、子育ての拠点として存在できているのは、あの自閉症の少年の心と約束したからです。それが私の原点です。

「むぎのこ」の子どもたちが地域の小学校に通えるように、お母さんも一緒に学校に通い、授業への参加がむずかしい子どものためにはフリースクールを立ちあげ、障害があってもあきらめないで一緒に勉強し、また時には子どもたちとお母さんも一緒にサイパンやグアムなど海外に行ってみんなで楽しんだりもしました。不登校になったり学校との関係で大変になった子どもたちもいましたが、そんな子どもたちや家族の希望がなくなるように居場所づくりもしてきました。そんな彼らは、何事もなかったように高校から学校に行き始め、大学まで行った子どもたちも大勢いて、人生を楽しんでいます。そして、それぞれに自分のすばらしいところを生かして、グループホームやアパートに住み美容師、児童指導員、福祉サービスなど、それぞれにすてきに社会とつながって、人から必要とされ、それまで支えられる側だったのが社会を支える側になっていることは、何よりもうれしいことです。

大学に行った子どもたちも小学校のときは特別支援教育を勧められました。特別支援教育も必要ですが、一人ひとりの子どもたちの生育歴を振り返ってみると、特別支援教育に進んでいたらこの子たちの可能性の選択肢は狭まっていたかもしれないと思うことがあります。

子どもが自分の可能性を発揮できるように、子どもの困り感を安心感に変えようとあきらめず敗をたくさん積み重ね、そのことを新しい歩みに変えてきました。さらにはお母さんたちと一緒に大学院で臨床心理学を学んだり、日本だけにとどまらず世界中の進んだ実践を見に行つて学んできました。

でも不思議なことは、「むぎのこ」を支えてきたのは一見我慢と努力が苦手に見える人でありながら、子どものためには地道に継続できるグリッド（やり抜く力）のある人が多いことかもしれません。本当に一人ひとり多様性があつて面白い個性がある人たちです。職員には、不登校・ひきこもり経験者や自閉症の診断を受けている人、卒園した人、卒園児のお母さん、お父さんなどいろいろな人たちがいて、かつては支援を受ける側から今は職員として支援する側に回つてくれている人もいます。努力と我慢は苦手でも、みなさん当事者としての多様性が子どもや困り感のある人たちの気持ちや波長に寄り添つて、チームの色彩を豊かにしてくれていると思います。そんな「むぎのこ」を見て「むぎのこはある意味、子どもを守る特殊部隊だね」と言つてくれた人がいました。そしてまた笑い合うことが多いのも特徴といえます。

右も左もわからないけど意欲だけはあつた学生四人が立ちあげてから三十七年の年月を経て、「むぎのこ」も思春期を過ぎて大人として自立しなければならぬところに来ているように思えます。思春期は、「迷い・悩み・不安」の時期（小野、二〇一九）と言われますが、この本はそんな時期をやつと越えた「むぎのこチーム」の物語です。

この本の中には、子どもを育てることの本質や子どもを見捨てないで手をつなぐこと、どんな状況になつても幸せをあきらめないことなど、苦労しながら子育てしてきたお母さんやお父さんの生の声や気持ちがちりばめられています。

「むぎのこ」は今日も、そしてこれから、目の前の子どもたちや家族、困り感のある方々の応援団として、クリエイティブにいろいろな人たちと手をつなぎ歩み続けていきます。

これまでお世話になつたみなさまに今の「むぎのこ」をご報告させていただくとともに、地域の大人たちの知恵と力と愛で子どもを育てていく「むぎのこ村」の実践を多くの方々にご紹介できればと思います。

社会福祉法人妻の子会 総合施設長 北川聡子

【引用・参考文献】

小野善郎（二〇一九）『思春期を生きる——高校生、迷つていい、悩んでいい、不安でいい』福村出版

第一部 むぎのこ物語——すべての子どもの命が輝いて大人になるために

第一章 社会福祉法人麦の子会 14

第二章 むぎのこの誕生からの歩み 28

一 むぎのこ誕生 28

二 療育の体験 30

三 施設での学び 32

四 牧師さんからのプレゼント 34

五 むぎのこの船出 36

六 無認可時代の苦悩 39

七 認可へ向けて 41

八 子どもの内面の世界への気づき——古家先生との出会い 43

九 認可施設としてスタート 45



十	虐待を受けたお母さんたちとの出会いとトラウマ	46
十一	さまざまな出会いからの学びと成長	49

第三章 むぎのこの子ども・子育て・家族支援 52

一	発達支援——幼児期から成人期を見据えた継続的支援	52
二	社会的養育が必要な子どもたちや家族へのサポート	72
三	家族支援——絶望から希望に変わるつながる支援	84
四	助けを求める力を育む生活支援	104
五	他機関との連携	107
六	支援を受ける側から支援する側に——子育ての村ができていく	107

第二部 子どもの成長・親の成長

第四章 むぎのこの子どもたちの日常 112

一	むぎのこ発達支援センターの毎日	112
二	放課後等デイサービス	127
三	不登校の子どもたち	137

第五章 思春期から大人へ——移行期のむぎのこの子どもたち 146

第六章 高校での成長——大人へのスタートライン 160

一 発達に応じた育ちの場 160

二 なぜ北星余市なのか 162

三 北星余市の高校生活 163

四 ほどほどの連携 165

五 高校生活の成果 167

六 大人へのスタートライン 170

第七章 むぎのこのお母さんたち——お母さんの手記 175

一 障害児の親として歩む決意 175

二 十年かかってやっと助けを求められるスタートラインに立つ 181

三 子どもの障害を受容すること 189

四 「負けてたまるか」の人生を自助グループに助けられて 192

五 着付けが救ってくれた絶望の日々 196

六 子育て、親育ち——仲間に応援してもらって少しずつ 199

七 仲間がいて自分がいて、みんなで支え合って生きている支援の連鎖 202

第八章 お父さんの涙——お父さん、出番です 208

第三部 一人の子どもを育てるには、村中の大人の知恵と力と愛と笑顔が必要

第九章 一人ひとりの存在が肯定リスベクトされるインクルーシブな社会に 236

一 どんな状況で生まれても命を大切にし、みんなで子どもを育てていく 236

二 インクルーシブなコミュニティの再構築 241

三 地域でどの子どもも大人になるまでの支援を 248

第十章 支援は続くよ、どこまでも 264

一 恩師の遺志を引き継ぐ 264

二 これからの社会福祉に必要な支援のあり方 268

三 障害のある人と共に生きる社会 271

おわりに 274

むぎのこの歩み 279

コラム①	ショートステイの支援	143
コラム②	子どもの成長——むぎのこで育んだ絆	156
コラム③	大学に行けなくなった三人——不安と希望に揺れる進路の選択	172
コラム④	里親になるって	205
コラム⑤	いつも子どもに寄り添って——里親ファミリーホームに関わって	230
コラム⑥	むぎのこの社会的養育	255
コラム⑦	「ダイナモ」との出会い——歩く福祉、北川園長	259

※むぎのこは、一九八三年に認可外保育施設（無認可）「麦の子学園」として始まりまし。その後、一九九六年に社会福祉法人麦の子会として認可を受けました。以来、施設名は「麦の子」から「むぎのこ」になります。本書では表記が煩雑になるのを避けるため、正式名称を表記する場合を除き、法人を示すときは「麦の子」、それ以外は「むぎのこ」と表記してあります。

（カバーと本文の写真提供むぎのこ）

第一部



むぎのこ物語

すべての子どもの命が輝いて大人になるために

第一章 社会福祉法人麦の子会

一九八〇年代はじめの札幌には知的障害児通園施設が一つしかなく、療育をする通園施設がもつと必要という思いで、大学生のとき障害のある子どもに関わるボランティアで出会った北川（現総合施設長）と三人の仲間の四人で通園施設設立準備委員会を立ちあげました。そして四人が大学を卒業したばかりの一九八三年四月に小さな教会を間借りして、発達に心配のある就学前のお子さん（特に知的障害のある方）に対して発達の支援と困難を抱えた家族の支援を行う施設「麦の子学園」として無認可でスタートしました。そして十三年後の一九九六年一月、社会福祉法人麦の子会として認可を受け、時代と社会のニーズに合わせて事業を拡張しつつ、児童福祉法、障害者総合支援法、子育て支援法に基づいた子どもへの支援サービスを行いながら現在に至っています。

事業別に分けると、子ども発達支援部門・成人部門・社会的養護部門・地域支援部門があります。

【子ども発達支援部門】（データは二〇二〇年二月現在）

〔乳幼児支援〕

●むぎのこ児童発達支援センター

- ・定員…四十七名（契約六十七名）

●児童発達支援事業所（九事業所）

- ・むぎのこ（一・二歳児）、セーボネス（二・三歳児）、スタデイ（二・三歳児）、プレイ（四歳児）、ライオン（四歳児 + 重症心身障害者）、シーランチ（五歳児中心）、ヨシア（五歳児）、大通、ライラック

- ・定員…一カ所十名、重心のデイサービスは五名（全体で九十五名）

●企業主導型保育園

- ・むぎのこ保育園
- ・定員…三十五名

児童発達支援センター事業の一日の活動（プログラム）は図1-1-1のようになっています。基本的な設定の活動は、十時から十四時四十五分までですが、働いているお母さんや、支援が必要な家庭のために、早い子は朝八時半ごろから登園し保育が始まります。十時から十三時まで、子どもと一緒に通園できるお母さんは母子通園をしています。母子通園の時間は、子ども

時間	内容	療育のポイント
9:00	①自由遊び 絵本・手遊び	・場、人に慣れる ・人への関わり
10:00	②リズム はじまりのわらべ歌 ③あつまり ④朝の会 -あいさつ・シール貼り -名前呼び -動作歌 -親子遊び 等	・あいさつ ・活動説明 ・親子関係 ・呼名、発声意欲 ・動作模倣 ・親の働きかけ ・スキンシップ (触覚)
10:45	⑤認定保育 -運動遊び・外遊び -製作遊び -やり取り遊び -散歩・水遊び	・戸外活動、発散 ・指示理解 ・人への働きかけ ・やり取り ・感覚への刺激
12:00	給食・はみがき・排泄	・身辺自立
13:15	お昼寝	
14:45	帰りの会	
15:00	日中一時支援	16:30～ 帰園

図 1-1 児童発達支援センターの1日の流れ

と向き合う時間です。終わったあとは、自分のことや家事の時間にするようにしています。親子で楽しい時間を過ごすために、できるだけ母子通園を勧めています。強制ではなく、単独通園にして美容院に行ったり、働いているお母さんもたくさんいます。三分の二くらいのお母さんたちは、日中一時支援事業（むぎのこ、ヨシア、スタデイ、セーボネス）を利用して十六時半以降まで活動をしてから帰っています。

〔学齢期支援〕

●放課後等デイサービス

・プレイ（一年生）、むぎのこ（二年～高校二年）、ライオン（一年生）、ライラック（三年生）、ジャンプレッツ（五年生～中学生）、ヨシア（二年生）、シーランチ（小学生）、野の花（五年生）、ブラックベリー（中学生）、グリーン（四年生）、大通教室（小学生）、ピッピ（六年生）、ユスタバ（二年生）、チェリーブロッサム（中学生）、スカイブルー（小学生）、トウモロロー（小学生）

時間	内容	療育のポイント
14:00	①集合 宿題 静の遊び	・学習
15:30	②ミーティング おやつ	・あいさつ ・活動説明 ・社会スキル練習
16:00	③設定課題 ー運動活動 ー製作活動 ー交流活動	・自己主張 ・行動調整 ・コミュニケーション ・指示理解
17:00	④帰りの会	

図 1-2 放課後等デイサービスの1日の流れ

・定員…ヨシア、グリーン、チェリーブロッサム、スカイブルーは二十名、他は十名。

学校が終わって十四時過ぎから各事業所に登園します。活動を通して自己肯定感が高められ、流れの中でソーシャルスキルが身につくように、工夫しています(図1-2)。たとえば登園して、フロントで待っている先生に、あいさつをして今日の流れを確認する。そしてカバン・ジャンパーを片づけ、宿題・静の遊び・おやつ・ミーティング・設定課題と一人ひとりの子どもが流れを理解し、スタツフとコミュニケーションをとりながら活動は進められています。一人ひとりの目標が達成できるように、またスタツフは子どものよいところに注目してたくさんほめることを大切にしています。

ブラックベリーは中高生の夜間の学習支援もしています。チェリーブロッサム、スカイブルー、トゥモローは不登校の子どものためのクラスなので朝から開所しています。

(心理・相談支援)

むぎのこは子どもの発達支援だけではなく、お母さん、お父さん、家族の支援もしています。子どもが安心、安全に暮らすためには、お母さん、お父さんの心の安定が欠かせませ

表 1-1 むぎのこ児童発達支援センターの心理・相談支援

グループカウンセリング	2歳児、3歳児、4歳児、5歳児：週1回午前 学龄児：月1回午後
個別カウンセリング（随時必要に応じて）	60人（現在行っている人数）
トラウマケア	月2回
自助グループ	グループによって月1～2回
パパミーティング	毎週土曜日 20：00～
ペアレントトレーニング （コモンセンスペアレンティング）	グループカウンセリングの前

ん。そのために段階に応じた心理・相談支援を行っています。詳しくは第三章で触れますのでここではシステムだけ紹介します（表1-1）。

グループカウンセリング

特別なニーズを持つ子どもの子育ては、他の子と比べるとゆつくりと発達することが多く、特性もあります。したがってお母さんたちの悩みも多くなります。そのためには個人のつらさや弱さを、複数の同じ悩みを抱えている仲間と共有することが大切です。お互いの気持ちを理解し合う経験を通して、自尊心が高まっていき、自身を知る機会にもつながり、自己肯定感を持つことができます。お母さん自身が自分に肯定感を持つて子育てすることは子どもへの自信につながります。

子どもが幼児の場合は、週一回、学童は月一回、年齢ごとに五、六人、多いときには十二人くらいで一回一時間程度やっています。

個別カウンセリング

グループというたくさんの方がいる前では話せないこともあります。自分の大切な話を一人のカウンセラーと話したい場合、心の状

態が非常に不安定な場合、治療的な癒しが必要な場合などに、専門の教育を受けた心理士が一對一で対応します。

自助グループ

以前に同じ問題や悩みを抱えながら自立して、今ではむぎのこの職員になった先輩お母さんがファシリテーターになって、お母さん同士だけで語り合う場です。虐待をされて育った、子どもを虐待してしまった、自死した家族がいる、新興宗教問題、依存症など、さまざまな問題ごとのグループから自分が参加したいグループに参加してもらいます。このピアカウンセリングには非常に重要な可能性が秘められています。

トラウマケア

二〇〇〇年、トラウマのワークショップをお母さんたち向けに行っています。始めた当初はまだ子どもの虐待やトラウマ、DV（ドメスティック・バイオレンス）問題が一般的ではなかった時代でしたが、育ちの中での心の傷の癒しが必要ではないかと考え行ってきました。西尾和美先生のワークを受けたお母さんたちは自分の育ちを振り返り、肯定し、新しい関係性を子育てに生かしています。間接的に子どもたちも肯定されることにつながるため、親の心理ケアの大切さを感じます。

最近ではトラウマフォーカスト認知行動療法（TF-CBT）を白川美也子先生から教えていただき、子どものトラウマケアの大切さも実感しているところです。

母親学習会

毎月一回行われるお母さんたちのための学習勉強会。先輩たちの体験談や発達や療育について専門家の話を聞くことができます。

パパミーティング

お母さんだけではなく、お父さんも月一回、土曜日の夜に男性職員が入ってコモンセンスペアレンティングの勉強会をして、お父さんたちの悩みや子育てに関する情報交換をしています。年に二回土曜日に父親（家族）参観も設けています。

【成人部門】

●障害者生活介護事業

- ・ ジャンプレッツ（多機能生活介護事業＋就労移行支援事業）
- ・ スワンカフェ&ベーカリー ハーベストガーデン（共同生活介護・共同生活援助事業）
- ・ トリニティ
- ・ グループホーム（十カ所）

成人部門は、生活介護事業・就労移行支援事業の多機能型のジャンプレッツ、生活介護事業ハーベストガーデン・生活介護事業トリニティ・共同生活介護ホワイトハウス（十カ所）で構成されています。

生活介護事業は、十時から十六時までの中で午前・午後に分け、作業（畑・洗車・除雪、パン製造、販売など）、スポーツ（ソフトボール・歩くスキーなど）、文化的活動（フラダンス・英会話・茶道など）を通して、豊かな生活を目指しています。

また、日々の活動や、多くの行事を通して、地域や社会とつながることを大切にしています。自己決定・選択を大切にしており、活動など自分で選択できるように工夫しています。

就労移行支援事業は、麦の子会児童デイサービスの給食づくりを担っており、調理の作業工程を学びながら、一般就労を目指しています。また、ペアレントトレーニングやソーシャルスキルトレーニング（SST）を通して社会スキルを学んでいます。

共同生活介護（グループホーム）は、日中活動が終了してからの生活の支援を行っています。日々の生活の部分の自立をサポートできるように支援しています。

支援の方針

- ・ 障害のある自分を愛し肯定すること、他者を大切にすることを重んじ、人と人が尊重し合える施設とする。
- ・ 本人の意思を大切にし、その意思が実現できるような活動をしながら体験を広げ、さまざま活動に挑戦できるように支援する。
- ・ 通所者の家族と職員のコミュニケーションを十分にとり、家族支援・生活支援を行う。

- ・ 障害があつても地域で当たり前に生きることを通して、みんなが大切にされる社会を目指す。
 - ・ 地域に開かれた施設として、実習生やボランティアを広く受け入れ、近隣小中学校とも連携し、児童・生徒の訪問を歓迎する。
 - ・ 人権侵害ゼロを実現するための援助技術の研鑽けんけんと研究に努め、必要な環境改善を推進する。
- 個人情報 の 守 秘 。

【社会的養護部門】

● ファミリーホーム

- ・ ガブリエルホーム（定員六名）、ベータールホーム（定員六名）
- ・ 里親（十九組、子ども三十五名、一時保護委託三名）

乳幼児から高校生まで、ほとんどが発達に心配のある子です。二〇一八年四月から一年間、札幌市の里親トレーニング事業の委託を受けていたので、里親をされている方やまだ里親の委託を受けていない方に対してペアレントトレーニングや研修会を行っていました。

里親さんやファミリーホームへの支援として、里子は昼間は児童発達支援事業所、学校、放課後等デイサービスを利用しているのですが、家で過ごしているときにも里親家庭やファミリーホームの職員だけでは対応が大変なときもあるので、ヘルプが必要な場合には職員がかけ

つけたり、地域に住む同じ世代の子ども集団が話を聞いたりなど、地域の中でチームとして里親家庭も支えています。

〔生活支援〕

- ・ 居宅介護事業所むぎのこ（ヘルパー事業所）
- ・ ショートステイホーム

ピース（定員六名）、むぎのこ（定員六名）

この他にも、むぎのこでは子どもや親御さん自身の子育ての負担を軽減できるように、利用できるサービスがあります。

〔ドアツードア送迎〕

重症心身障害（重心）などさまざまな障害を持つ子どもや精神疾患のあるお母さんもいるので、通園の負担を和らげるためにドアツードアのバスなど車による送迎をしています。これによりできるだけ通園の機会を多くし、子どもらしい日中活動ができるための支援です。

〔ショートステイ〕

生活支援ということでショートステイホームがあります。障害のある子どもの子育てが大変なお母さんのレスパイト（一時休止）だけではなく、睡眠障害の治療的な関わりが必要な子どもや、虐待が疑われた子が緊急的に泊まったりもします。児童相談所からの一時保護委託で来る子どもたちもいたりします。福祉型のショートステイですが、トイレやお風呂がバリアフリーの

つくりになっているので、重心児や医療的ケアの必要なお子さんの利用もできます。

〔ホームヘルプとの連携〕

発達に困難のある子どもは、食事や入浴という日常の生活場面でも落ち着いてできないことがあります。また養育者自身が疲弊してしまつて、家事ができなくなるなど、生活自体に支障をきたすことが出てきます。そんなときにヘルパーが家庭を訪問して介助を行うサービス（居宅介護事業）を行つています。ヘルパーさんの中心は先輩ママたちです。

【地域支援部門】

- ・ 相談室セーボネス支援事業所（子どもから大人まで地域相談事業所）
- ・ むぎのこ子ども相談室（指定障害児相談支援）
- ・ 保育所等訪問支援事業
- ・ 障がい児地域支援マネジメント事業
- ・ むぎのこ発達クリニック

札幌市の「障がい児等療育支援事業」、「保育所等訪問支援事業」の制度に基づいて、保育所等訪問支援事業や障がい児地域支援マネジメント事業では、年に二回札幌市東区の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスを回つてその事業所で困つていることを聞いたりしています。また自立支援協議会の子ども部会の部会長を仰せつかっていますので、札幌市の障害のある子

地域支援（保育所等訪問支援、療育支援、専門支援）

障害者相談支援（相談室セーボネス）

居宅介護事業所むぎのこ：ホームヘルプ（相談、療育支援）

むぎのこ発達クリニック（医療的支援・発達支援）

福祉、医療、労働等関係機関との連携

- ・ショートステイ
（短期入所）
- ・セーボネス保育園
- ・むぎのこ児童発達支援センター
- ・児童発達支援事業
（7事業所）
- ・日中一時支援事業

- ・ショートステイ
（短期入所）
- ・放課後等デイサービス
（7事業所）
- ・フリースクール

- ・ケアホーム
- ・生活介護事業施設
就労移行支援 B 型
ジャンプレッツ
- ・スワン
ハーベストガーデン

乳幼児期

学童期

成人期

図 1-3 麦の子会の発達支援システム

どもと家族がよりよく生きられるようにさまざまなプロジェクトや研修を札幌市の関係者と共に力を合わせています。

また札幌市の児童発達支援研修会を行っています。札幌市内に九つの児童発達支援センターがあり、その地域の約五十カ所の児童発達支援事業所と放課後等デイサービスの職員、あとは幼稚園と保育園のスタッフが集まって行っている地域ごとの研修会が年に二回、全体の研修も一回あるので、合わせて年に三回研修会を行っています。

児童発達支援研修会はグループワークを中心に、地域にある事業所の職員と一緒に顔の見える関係づくりや連携にもつながっています。

むぎのこに通う子どもが、むぎのこ以外の地域の保育所や幼稚園に通う場合もあります。

その場合には、その機関と情報の共有や連携をはかり地域全体で支援をしています。

就学前だけでなく、小学校に通う学齢期についても子どもが通う学校（クラス）と連携してむぎのこの子どもだけでなくサポートに入っています（学校支援）。

相談支援の事業所として札幌市から委託された相談室セーボネスがあります。むぎのこのお子さんだけではなく、地域に住む障害のある方からの相談を基本として、家族全体が困難を抱えている場合や公的機関への手続きややりとりがむずかしい場合に、制度の説明や受給の相談、公的機関との手続きへの同伴なども行っています。

このように子ども本人への発達支援、子育てをする家族支援、地域全体への支援を、チームアプローチとして職員全体で連携しながら行っている他、卒園児のお母さんたちが助け合ったり子どもたちを見てくれたり、また同学年のお母さん同士の支え合いで、助けたり助けられたりしながら、みんなで子育てをしています。

今年度（二〇二〇年）の麦の子会の子会の職員手帳にも載っているミッション（存在意義）とビジョン（組織として目指す姿）を紹介します。

・ミッション——共に生きる

むぎのこは困り感のある人たちを救い、共に生きるために存在しています。生まれてくるとき、何一つ自分で選択できません。しかしみんなが、生まれてきてよかったと思える日々、そ

して、この世は生きるのに値すると思える社会、すべての人が、リスペクトされ、敬意を払われる世界を創っていきます。

・ビジョン

一人の子どもを育てるには、村中の大人の知恵と力と愛と笑顔が必要です。むぎのこは、困り感を感じている子ども・人・家族・働く人が出会う場であり、やさしさを通じて一人ひとりが本来持っている光が輝き、それによって生まれる新たな価値を世界に発信し、世界中の人々の幸せを追求します。

そんなむぎのこ（麦の子会）ですが、どんな歴史を辿ってきたのでしょうか。次の章ではむぎのこ（麦の子会）の三十七年の歴史を振り返ってみます。

子育ての村ができた！ 発達支援、家族支援、共に生きるために ——向き合って、寄り添って、むぎのこ37年の軌跡

2020年 6月25日 初版第1刷発行

2020年 10月10日 第2刷発行

編者 北川聡子

小野善郎

発行者 宮下基幸

発行所 福村出版株式会社

〒113-0034 東京都文京区湯島2-14-11

電話 03-5812-9702 FAX 03-5812-9705

<https://www.fukumura.co.jp>

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

©S. Kitagawa, Y. Ono 2020

ISBN978-4-571-42075-7 Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。